

季節ごとの様子	春	夏	秋	冬
水鳥	○ ●冬鳥のカモやカモメたちが北へ渡って行きます。 ●旅鳥のシギやチドリたちが南から次々に渡って来て、和白干潟で栄養をつけて、また北へ渡ります。 ●夏羽が見られます。	△ ●夏鳥のコアジサシ・コチドリ・オオヨシキリなどが南から渡って来ます。 ●留鳥のサギが増えます。 ●夏羽が見られます。	○ ●旅鳥のシギやチドリたちが北から次々に渡ってきます。 ●冬鳥のカモやカモメたちも渡って来ます。	◎ ●冬鳥のカモ・カモメ・カイツブリ・シギ・チドリたちがたくさん越冬しています。 ●和白干潟のシンボル、ミヤコドリが見られます。
底生動物	○ ●潮が引いていて天気の良い時は、カニたちが干潟上に出てきて、砂に付いている有機物を食べます。食べたあとの砂団子がたくさん見られます。	◎ ●貝・カニ・タマシキゴカイなどの繁殖期です。 ●カニがハサミをふるなど、活動が活発です。(干潮時) ●干潟上をウミナナ類が動いています。	○ ●夏に生まれた数ミリのカニやウミナナの稚貝がたくさんいます。 ●潮が引いていて天気の良い時は、カニが干潟上に出てきて砂に付いている有機物を食べます。	△ ●カニたちは石の下や穴の中で、じっとくまっています。 ●イトメやヤマトカワゴカイなどのゴカイの繁殖期です。
塩生植物	◎ ●ハマダイコン・ハマエンドウ・ハマヒルガオなどの花が咲き、ハマニンニクが穂を出します。 ●アシの新芽が出て、緑色のアシ原になります。	○ ●ツルナ・ハマナデシコ・ハマユウ・ハマウド・ハマボウ・ハマゴウなどの花が咲きます。 ●ヒトモトススキが穂をつけます。	◎ ●アシやシバナの穂が出ます。 ●ハマサジ・ウラギクの花が咲きます。 ●ハママツナ・ホソバナハマアカザなどが紅葉します。	△ ●ウラギクの花が綿毛になります。 ●アシなどの植物は枯れていて、その間からは、ウラギクやホソバナハマアカザなどの新芽が出てきます。

◎は最もよく見られる ○はよく見られる △は余り見られない時期

プログラム例 (2時間)

- 10:00～ 干潟のはなし (干潟の紙芝居を使って)
- 10:20～ バードウォッチング (望遠鏡を使って)
- 10:50～ 干潟の生物観察 (干潟に入って)
- 11:40～ まとめ
- 12:00 終了



きりえ/カンムリカイツブリ

持ってくるもの

長靴、スコップ (小)、バケツ (小)、水を入れたペットボトル (手洗い用)、靴のかえ、靴下のかえ、おしぼり、ビニール袋、タオル、水筒、防寒具 (冬)、帽子など。/大きいシート (全員の荷物を置くため)

観察会の前に

- ★和白干潟の自然案内や「環境教育シリーズⅠ・Ⅱ」のリーフレットを読んで、干潟の学習をしておいてください。
 - ★和白干潟のビデオやDVDを見ておいてください。和白干潟を守る会で貸し出します。
- ※打ち合わせの時に学校や公民館には、和白干潟の写真集やリーフレットを寄贈いたします。

和白干潟の環境教育プログラムの指導を希望される皆さま

1. 問い合わせ・申し込み……電話で、和白干潟を守る会の観察会担当へ。
TEL: 090-8412-2663 (山之内)
2. 打ち合わせ、下見……和白干潟を守る会の担当メンバーと必ず打ち合わせをしてください。
3. 必要な経費 (観察会が2時間程度の場合)
 - (1) 講師料… (打ち合わせ・下見のお世話を含めて) 10,000円
 - (2) 自然観察ガイドの交通費… (1人につき) 1,500円 (小学校の場合1クラスにつき2名のガイドが担当します。望遠鏡と図鑑を使って子どもたちに水鳥や底生動物を見せて指導します。)



きりえ/初秋の風 (アシ)

和白干潟を守る会 〒811-0202 福岡市東区和白1-14-37 (山本方)
TEL/FAX: 092-606-0012 代表/山本 廣子
ホームページ: <http://wajirohigata.sakura.ne.jp/>
E-mail: qqt33ptm9@wing.ocn.ne.jp (山本)
年会費: 2,000円 振込先: 和白干潟を守る会 (郵便振替: 01720-4-23860)

★このリーフレットは (公財)イオン環境財団の助成を受けて作成しました。

発行者: 和白干潟を守る会 カット: <すだ ひろこ
発行日: 1997年6月/第2版: 1999年8月/第3版: 2006年11月/第4版: 2011年11月/第5版: 2019年4月
印刷: ロータリー印刷株式会社